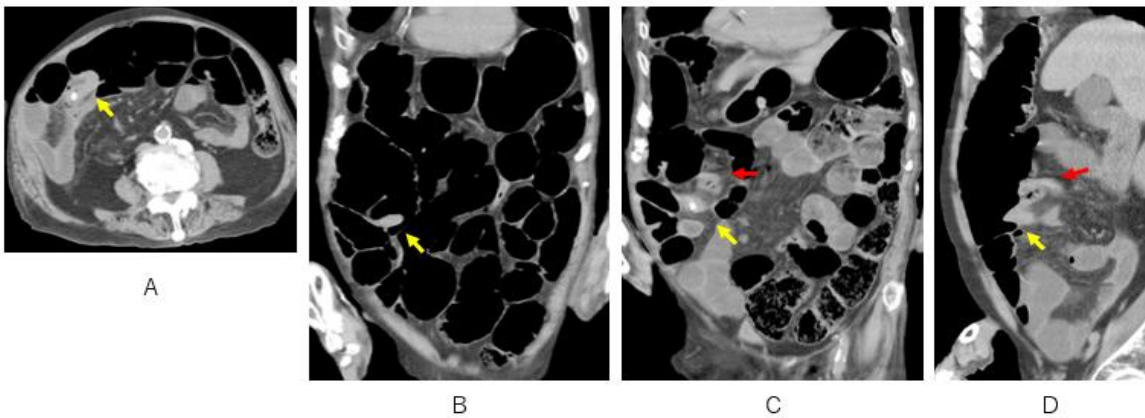


## 癒着性麻痺性イレウス

### 虫垂炎：癒着性麻痺性イレウス

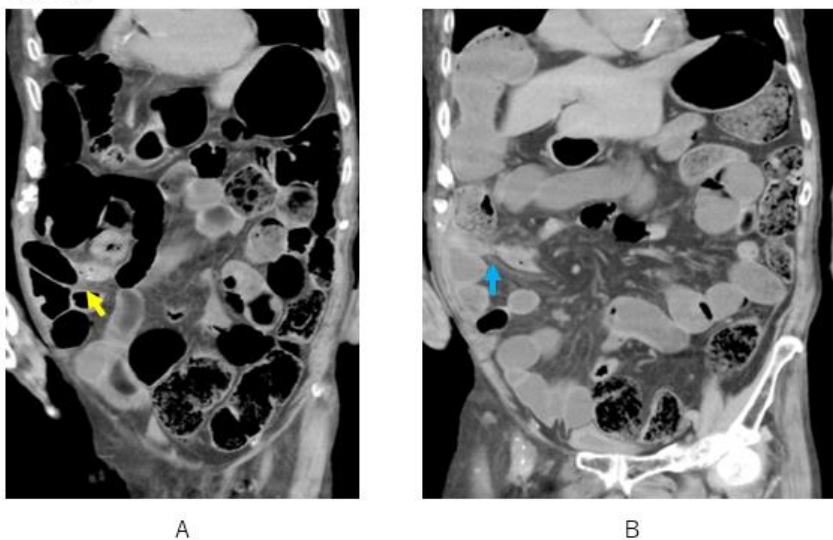
90代 男性

9月2日 / 9月4日 / 9月6日



9月2日

発症当日 腸管ガスによる拡張が腹部全体に認められる。虫垂(黄矢印)と回腸末端(赤矢印)が描出されている。結腸に通常の内容物が見られる。

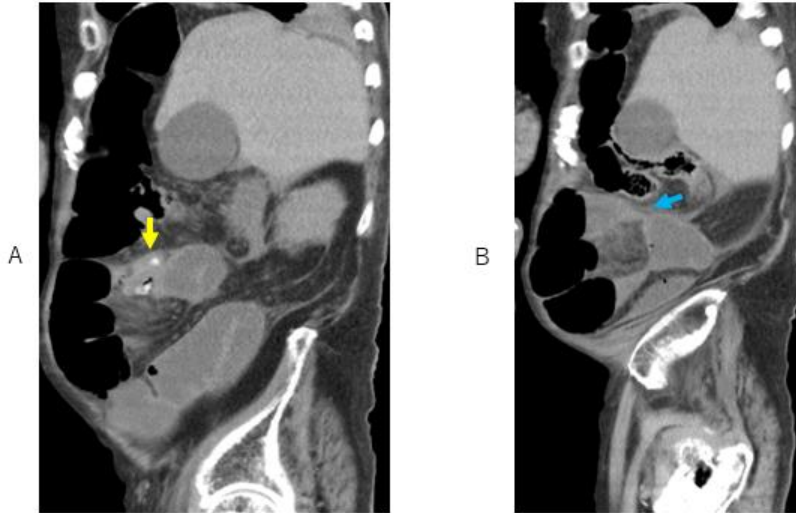


9月2日

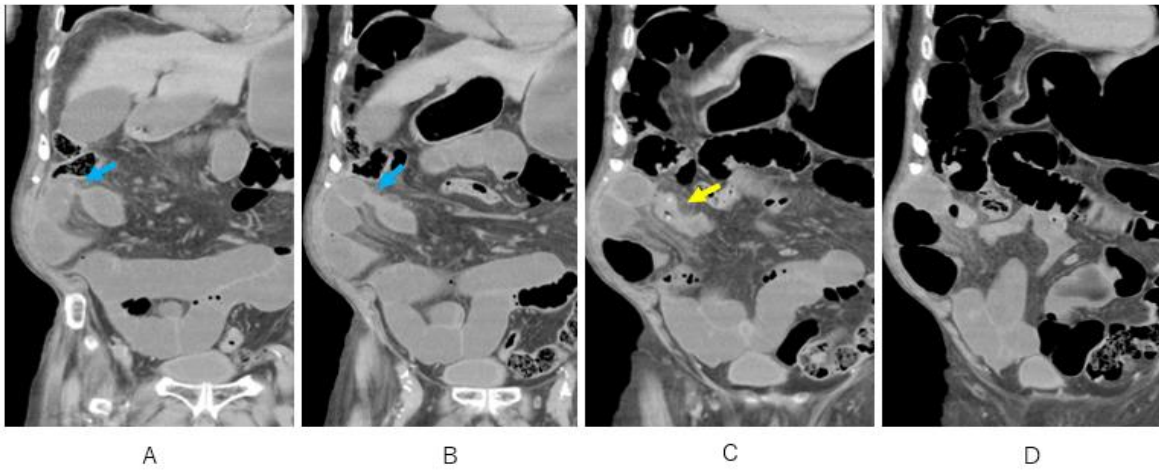
発症当日 小腸の拡張は3cmを超えている。虫垂(黄矢印)と閉塞移行部(青矢印)が近接している。

## 2日後

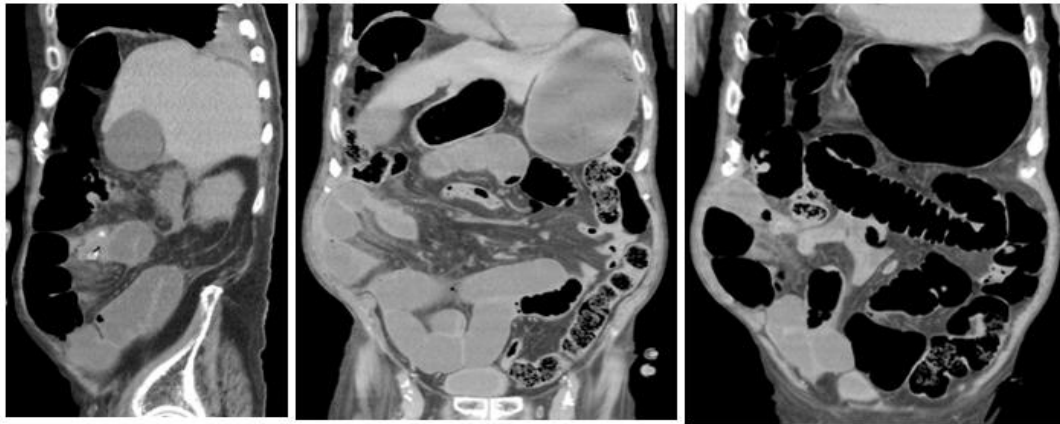
• 9月4日



2日後CT,虫垂(黄矢印)と閉塞移行部(青矢印)が近接して認められる。  
その下方に腸間膜浮腫が認められる。



2日後CT、閉塞移行部(青矢印)はやや腫大した虫垂(黄矢印)に近接して認められ  
その後収縮腸管に移行している(D)。

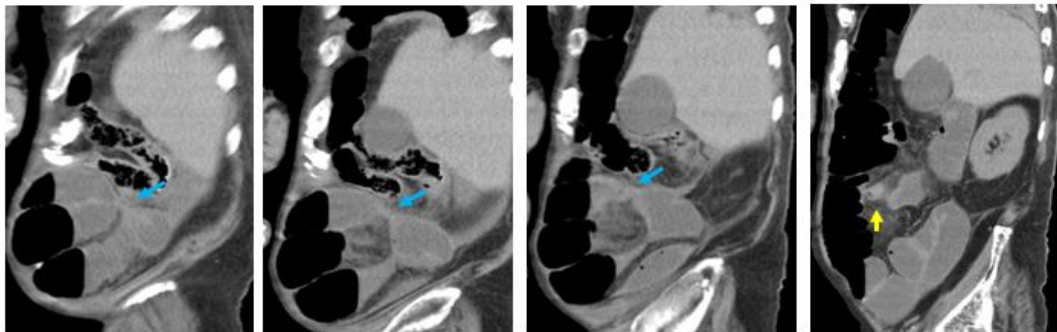


A

B

C

腸間膜浮腫が認められる。腸間膜浮腫の収束部に腸管のbeak signは認められず。

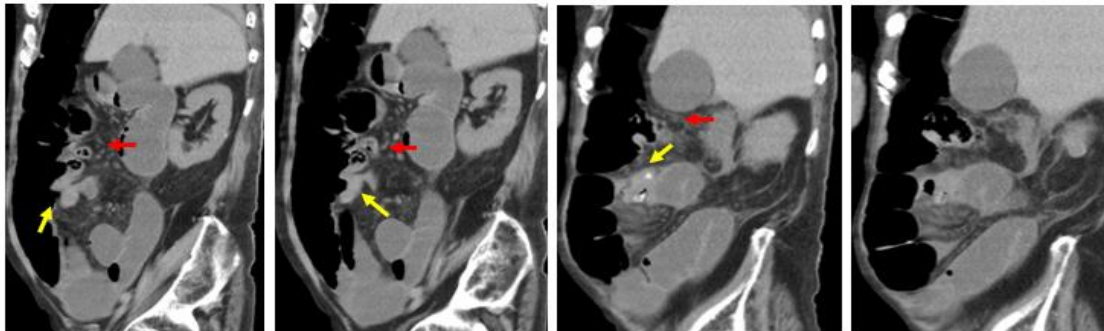


A

B

C

D



E

F

G

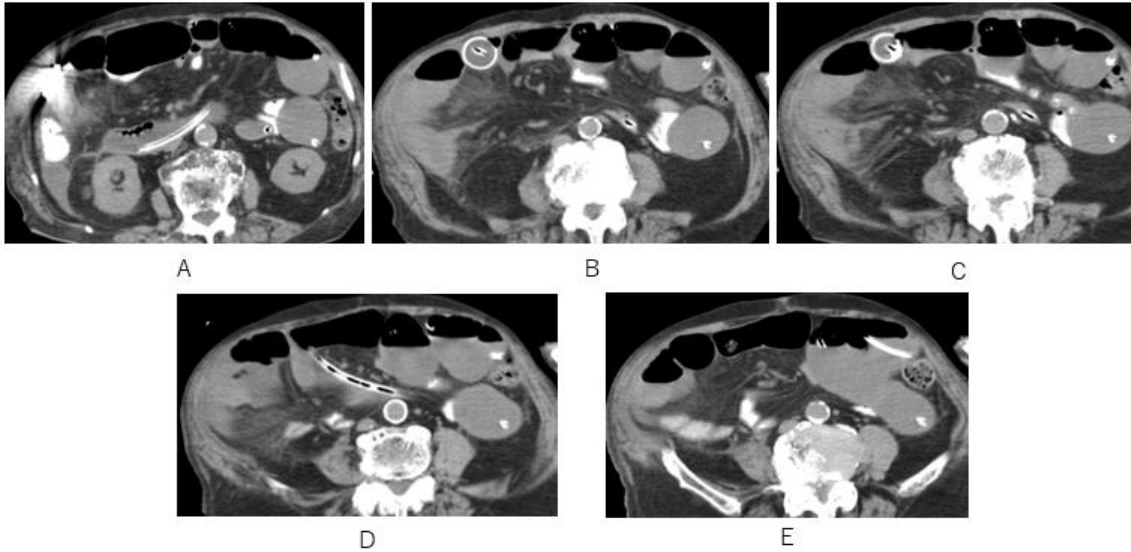
H

閉塞移行部(青矢印)は腫大虫垂(黄矢印)に近接している。回腸末端(赤矢印)は上方に位置している。  
腸間膜浮腫が閉塞移行部周囲に認められる。



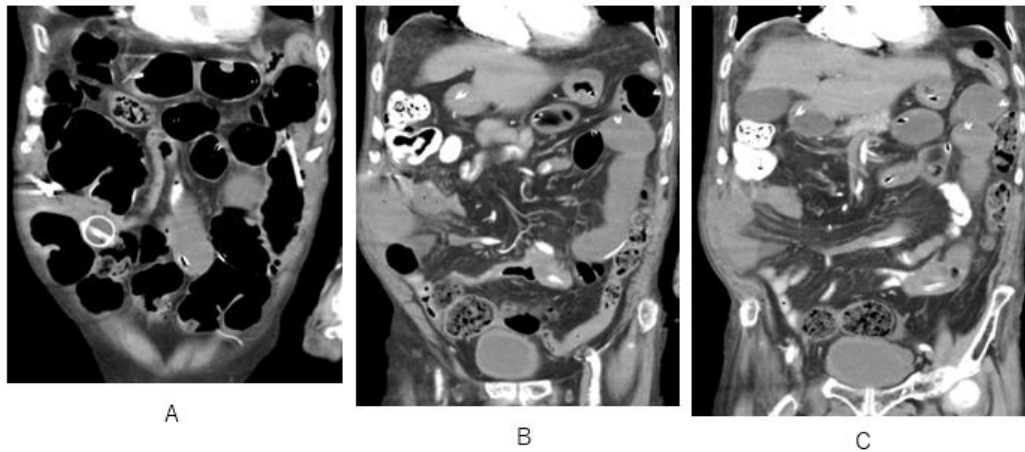
## 4日後

• 9月6日



4日後 イレウス管が回腸遠位部まで挿入され、造影剤が注入された。造影剤は結腸に到達している。

一方 閉塞移行部前後の拡張小腸に造影剤の貯留はみられず。



4日後 イレウス管挿入、大腸へ造影剤通過 収縮腸管も描出

Closed loop類似の拡張腸管造影剤みられず。

造影剤は拡張腸管を瞬時に通過したことになり **post stenotic dilatation** の状況でその後に収縮腸管に移行、回腸末端を経て大腸に到達したものと考えられる。